設備・作業のリスク評価表(乗組員)(個別/まとめ)

報告書提出日: 2011年 6月 29日

設備・工程名	安全衛生推進計画に基づく実施
作業名称	システム監査等の指摘 トラブル(災害・ヒヤリハット)発生
管理部署名	安全ハットロールの指摘 その他()

リスク調査年月日: 2011年 6月 28日
 リスク調査チーム: 安全衛生推進リーダー: _____
 安全衛生推進員: _____
 作業従事者: _____
 助書者(有職者): _____

対策実施後のリスク評価年月日: 2012年 2月 22日
 リーダー: _____
 推進員: _____
 検査者: _____

OS(作業)実施状況: 実施済
 実施済項目: _____
 未実施項目: _____

No.	危険作業項目	頻度(回/分)	時間(分)	作業形態	リスク評価				リスク低減対策				リスクレベル	残留リスクへの対応 (対応内容や作業手順等に明記)			
					リスク内容 (災害に繋がる過程として 「～なので(～して)」「～になる」に記述)	災害の発生 可能性 (S)	暴露 頻度 (P)	発生 程度 (F)	リスク点 (SP+PF)	リスク高 (SP+PF) (初期)	対策 内容 (対策)	対策 優先 順位 (A)			実施 予定 日		
1	振動機のブレーカと、張込ラインのハットにロケットを実施し警告板を掲げる	5回/年	5分/回	8	13	6	2	1	9	II	露出した充電部がある場合は絶縁を有する手袋を着用する	5	A	次回作業時	9 (6+2+1)	II	露出した充電部が有る場合は絶縁を有する手袋を着用する
3	酸蒸気(18%以上)酸化水蒸気濃度(10ppm以下)を測定する	5回/年	5分/回	8	8	6	4	1	11	III	安全帯を着用する	5	C	次回作業時	11 (6+4+1)	III	安全帯を着用する
4	液面計の蓋を外す	5回/年	10分/回	8	6	3	2	1	6	I	ヘルメットを着用して対面からゆっくり蓋を外す				(++)	(++)	ヘルメットを着用して対面からゆっくり蓋を外す
5	リング・コンスタンスリングを外す	5回/年	5分/回	8	6	1	2	1	4	I	ヘルメットを着用する				(++)	(++)	ヘルメットを着用する
6	リングを外し、テープ巻取りを振く	5回/年	15分/回	8	6	3	2	1	6	I	ヘルメットを着用する				(++)	(++)	ヘルメットを着用する
7	テープ巻取りを外し、テープ巻取りを振く	5回/年	15分/回	8	6	3	2	1	6	I	ヘルメットを着用する				(++)	(++)	ヘルメットを着用する
8	テープ巻取りを外し、テープ巻取りを振く	5回/年	15分/回	8	6	3	2	1	6	I	ヘルメットを着用する				(++)	(++)	ヘルメットを着用する

リスク	優先度	対策
高	高	直ちに中止または改善
中	中	低優先に改善
低	低	計画的に改善

対策内容が確定しない場合でも、番号を記入
 5:実施できる
 4:努力すれば実施できる
 3:やや困難であるが実現可能
 2:かなり困難である
 1:実現は困難である

リスク	優先度	対策
高	高	直ちに中止または改善
中	中	低優先に改善
低	低	計画的に改善

総リスク点
 14~20 IV 許容できない
 11~13 III 重大な問題がある
 8~10 II 問題がある
 1~7 I 多少の問題がある

優先度
 高
 中
 低

対策
 本質的対策:危険作業そのものの除去、変更など
 工学的対策:隔離、設備の改造、安全対策設備の導入など
 管理的対策:手順書の整備、看板の設置、教育の実施など
 保護具着用:防護衣・保護衣・保護具・保護具の着用など

リスクアセスメント実施報告書

部署名	実施理由			リスクの抽出と評価	リスクの低減対策立案	安全衛生管理室	当該実施部署
対象工程名	実施日付	平成	年	月	日	室長	課長
対象作業名	実施者名					部長	課長
対象設備名	(参加者)						

【重篤度】		【災害になる可能性】		【危険源に接近する頻度】		【リスクの評価】	
区別	点数	区別	点数	区別	頻度	総合レベル	評価
致命傷	10	極めて高い	6	ひんぱん	1回/日、以上	V	重篤に対策を要す
休業(重傷)	8	高い	4	時々	1回/週、以上	IV	優先的に対策を要す
休業(中等傷)	4	ある	2	めったに無い	1回/月、以上	III	計画的に対処を要す
不休(軽傷)	2	低い	1	ほとんど無い	1回/年、程度	II	対策を考慮する
無傷	1	無い	0			I	許容できる範囲

【重篤度】 死亡又は重篤の後遺症を伴う災害
 入院や自宅療養(30日以上)が必要又は後遺症を伴う災害
 休業(中等傷) 入院や自宅療養(30日以下)するが後遺症の残らない災害
 不休(軽傷) 病院で治療後、自力で出勤可能な災害
 無傷 会社で薬などにて処置し、病院にいく必要は無いケガ

【危険源に接近する頻度】 点状
 かなり注力力を要しているも災害になる
 安全対策が実施されていない、習熟に危険源に立ち入ることが出来る。
 普通の注意力で災害になる。
 指示等はあるが、危険源に立ち入る。
 知断や手技等を要する災害になる。
 安全網・カバー等は設置されているが、可動範囲に手が届く等危険が残る。
 うっかりはみやりしている災害につながる。
 安全対策・作業自体が無くならない。
 危険要因・作業自体が無くならない。
 安全対策が実施され、危険要因が無くならない状態。

【リスクの評価】 総合レベル
 V 重篤に対策を要す
 IV 優先的に対策を要す
 III 計画的に対処を要す
 II 対策を考慮する
 I 許容できる範囲

※危険要因、作業自体がなくなり災害につながる可能性がなくなった場合は評価レベルを「I」とする。

No.	リスクの抽出 (被害に至る過程をSWI/Tで 「いつ、どこで、だれが、〇〇をする時、J+ I〇〇なので、どうなる」と記述して下さい。)	現状でのリスク評価		対策案での被害評価		対策実施後の評価		備考 ①既存リスクへの対応 ②履歴、その他
		リスクの低減対策	既存の災害防止対策	リスクの低減対策	既存の災害防止対策	総合点	総合点	
1								
2								
3								
4								
5								
6								
7								
8								

※対策実施後のリスク評価が許容可能なレベルになるまで対策の立案→実施を繰り返してください。
作成年月日: